

來らんとする事等を彼は汝等に示さん。彼は我を榮耀せん、即ち彼は我のものを受けん、而して汝等に示さん。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

地上の住民よ、歡び呼ばれ、神の榮譽に就て諸の賦を謳へ。汝等凡て神を畏る者よ、來りて聽け、我汝等に、彼が我を惠みて作したまひし一切のことを語らん。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

嗚呼 天主、主は此供物の聖き通功に由て、我等に主

の無比神性を分予ちたまへり。願くは我等をして主の眞誠を認めて、我生活の神聖もて、其眞誠に適ふものと爲らしめ給はんことを。我等の主 基督に依て恭く冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五 頁)

聖體奉舉後の禱 (十五 頁)

主禱文 (十七 頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

眞の聖靈なる保慰師の來らん時、彼は正義と、審判と
以て、罪の世を服さしめん、慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

我等の神なる主よ、願くは我等が信じて領け奉つれ
る秘蹟に由て、我等の罪科より淨められ、諸の危難より
救はれん爲め、我等を衛護り給はんことを。我等の主耶
蘇基督に依て謹で主に願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○御復活後第五主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

歡喜の賦を謳へ、而して其聞かれんことを、
 其民を援へりど、地の邊陲まで宣傳ふべし、
 地上の住民よ、歡び呼はれ、神の榮光に就て諸
 の賦を謳へ。汝等は己の榮譽として天主を祀り奉つれ。
 (榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

諸の善の源にて坐ます 天主、我等主に最も恭しき祈
 禱を捧げ奉つる、是は主の恩寵に由て、聖き思慮の我等

に起り、我等をして聖き動作以て其を成功さしめ給ふこ
 どの、聖旨に愜はん爲なり。我等の主 基督に依て。亞
 孟。

雅各甫書 一章二十一節

我最愛する兄弟よ、汝等告げられたる言を保有つこと
 に注意すべし。自己を欺きて徒だ之を聴くのみに止まる
 勿れ。夫れ此言を聴き、行はずして足れりとする者は、鏡
 に對て性來の面を見る人に似たり、彼れ眼を之に注ぎて
 去り、後直ちに其相貌の如何なりしかすら忘る。然と自
 由なる全き律法を心に留めて考へ、堅く結んで離れざる

者は、頼て其を忘るゝ爲に聽くを以て足れりとせず、其聞く處を行ふて、其内に幸福を見出すべし。若し人宗教を知るを信じて、其舌に鎌を掛るを欠き、自ら其心を欺かむ、其宗教は徒然なり。父なる神の前に穢なく潔き宗教は、孤兒と寡婦を其患難の中に訪ね、現世の腐敗に對して已を衛るに在り。

昇階誦

慶哉、慶哉。基督は甦りつ、其血を以て贖はれたる我等に現はれ給ひぬ、慶哉。我は我父より出で、世に臨めり、今や世を離れて我父に歸るなり、慶哉。

聖約翰福音書 十六章廿三節

維時 耶蘇其弟子等に曰はく、誠に誠に我汝等に告ぐ、汝等若し吾が名を以て何物をか父に求めなむ、之を汝等に與へたまはん、今まで汝等は何事をも吾が名を以て求めたる無し。求めよ、然らむ受けん、汝等の喜悅竟に全からん。此等の事を我は諺語もて汝等に語れり、時至らん其節はもはや諺語もて汝等に語らじ、明白地に父を汝等に示さん。彼日には汝等わが名を以て求めん、我は汝等の爲に父に求めんとは汝等に言はず。如何となれむ汝等われを愛し、且我が神より出たるを信せしに因りて、父

自ら汝等を愛したまへ也。我は父より出て世に來れり、復世を離れて父へ往く。其弟子等彼に言けるは、嗚呼今汝は明白地に語りたまふ、毫も諺語を語りたまはず。今や我等は知る汝は萬事を知りたまふ、又汝は人の汝に問ふを待ちたまはず。是に因りて我等は汝が神より出たまひしを信ず。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

諸の人民よ、我等の天主を祝し奉れ、到處に其讚美を響かしめよ。我靈魂に生命を賦予へ、我足の揺らぐを

容し給はざる者は、是れ我等の天主なり。我祈願を斥け給はず、具慈悲を我より褻ぎ給はざる 主よ、祝せられ給へかし。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは主を信する儕輩の信心より捧げ奉れる此供物が、彼等を天の榮光に導かん爲め、彼等の祈禱と献物とを懇切に受け給はんことを、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十一 頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

主に對て歌へ、慶哉、主に對て歌へ。主の聖名を祝

せ、其救靈を日々に宣傳へよ。慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

主よ、我等主に祈り奉つる、願くは此天の養糧に飽き、
猶常に正さるるを望ましめ、其望むものを獲さしめ給
はんことを、我等の主 基督に依て慎で願ひ奉つる。亞
孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)

○聖主昇天祝日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

ガリレア人よ、汝等何故に天を仰ぎて立てるや、慶哉。
汝等が天に上るを見し者は、同じ方法もて光臨りたまは
ん。慶哉、慶哉。慶哉。(詩)諸民よ、舉て讚揚げ奉つれ、歡
呼して天主の尊前に汝等の喜悅を彰はすべし。
(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

全能の天主、我等主に願ひ奉つる。願くは我等をし
て主の御獨子なる我等の救贖主が、今日天に上げられ給
へるを確く信じて、其熱誠なる希望に由り、精神に於て
同じく其處に住まらしめ給はんことを。我等の主 耶蘇
基督に依て恭く願ひ奉つる。亞孟。

使徒行傳 一章一節

テオフ井口よ、我最初の書に於て、凡そ 耶蘇の始以
來、其撰びたる使徒等に、聖靈に託て訓し後、天に昇りし

日に至る迄、行へる所、教へし所を語れり。夫れ 耶蘇
 は其苦難の後、又彼等に現はれ、夥多の證據に由て已の
 活たりしことを明確に認めしめ、四十日の間彼等に見え、
 神の國に就て語り、次に彼等と偕に食をなして、彼等に
 命じけるは、汝等決してイエルザレムを離らずして、我
 口より聞きし處の父の約束したまひし事の成就を待つべし、
 蓋はヨハネは水にて洗したれども、汝等は久しからずし
 て 聖靈にて洗せらるべけれ也と。時に其處に在りし
 者等彼に問ひけるは、主よ汝イスラエルの國を恢復せん
 とするは今なるか、彼等に答へけるは、父の定めたまは

し時、及び期は汝等の知るべき處にあらず、然れども
 汝等の上に臨むべき聖靈の能力を享け、イエルザレム、
 ユデア全國、サマリア及び地の邊陲までに我に就て証人
 と爲るべし。斯く語り畢りし時、彼等の見る間に昇りて
 雲の之を彼等の眼に見えざらしむるに至れり。彼等 耶
 蘇の天に昇るを仰ぎ觀たりしに、皓衣を着たる二人の者
 彼等の傍に現はれ、曰けるはガリレヤ人よ、汝等何故に
 天を仰で立てるや、汝等を離れて天に昇りし此 耶蘇は
 汝等も其上るを見たる其如く復來らんと。

昇階誦

慶哉、慶哉。天主は喝采の聲の裡に舉り、主は喇叭の音の中に昇れり、慶哉。主は其聖山、シナイの上に在り、彼は天に昇りつ、捕虜其者を擒となして拉れ往けり。

聖馬爾谷福音書 十六章十四節

維時 耶蘇其十一人が會食する處へ現はれて、彼等の信なきと心の頑硬なるを責たまへり、是は彼等 耶蘇を其の復活りたる後に賭たてまつりし者等〔の言ふ所〕を信せざりしが故なり。耶蘇乃ち彼等に言たまはく、至世界に往て、一切の受造物に福音を宣よ、信じて洗せらるる者は救れん、信せざる者は罪に定められん。信する者

等には此事の異徴ありて隨がはん、即ち彼等は吾名を以て惡魔を逐ん、新しき國語を話さん、蛇を執へん、酖毒を飲むとも身に害なけん、病る者に手を按む則ち癒ん、主耶蘇は彼等を諭して後、天に舉られ、神の右に坐したまふ彼等出ゆきて徧く宣傳へたり。主共に働き給ひ、其隨ふ異徴を以て言説を證し給へり。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

天主は喝采の聲の裡に舉り、主は喇叭の音の中に昇れり。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは聖子の榮譽なる昇天の記念として、我等が捧げ奉つれる供物を饗け給へ。又主の慈悲を垂れて、我等をして現生の危難を免かれ、永久の生命に達せしめ給はんことを。我等の主 基督自身に依て、我等恭しく主に願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を読む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

汝等、東の方にて天の最高處に昇りたまへる 主に謳

歌へ。 慶哉。

聖體領後の禱

全能にして慈悲深き 天主、若し聖意に適はゞ、願く

は我等をして其領け奉つれる有形秘蹟の無形功果を感得しめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○昇天後八日間^{しやうてんごやうかのあひだ}に在^ある主日^{しゆじつ}

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、我聲我叫音を聽き給へ、^{アレルヤ}慶哉。我心は主に語り、我眼は主を覓めぬ。主よ、我は主の聖顔を索ね奉つらん。願くは聖眼を背けたまはざれ。^{アレルヤ}慶哉、^{アレルヤ}慶哉。(詩)主は我光明、我救靈にて在ます、我誰をか恐れんや。
(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

全能永遠の天主、願くは我等の意志をして、常に主のそれに従はしめ、我等の心情をして、全く主の神聖なる稜威に仕へ奉つることに歸依せしめ給はんことを。我等の主、基督に依て一向願ひ奉つる。亞孟。

伯多祿書第一 四章七節

我最愛する者よ、汝等智を以て行爲ひ、醒覺て禱るべし。何事よりも先づ相互に篤く相愛すべし、蓋は愛は夥多の罪を掩へむなり。汝等相互の間に喜びて好遇すべし。神

の諸の恵を司とる忠實なる家宰の如くに、汝等の方法に循て互に相助くべし。人若し語らむ、是は神の能力に由てなす如く勉めんことを、是れ吾等の主、耶穌基督に由て、萬事に神の榮譽を受けたまはん爲也。

昇階誦

慶哉、慶哉。主は萬國民の上に君臨め、天主は其神聖の寶座に坐し給ふ、慶哉。我汝等を孤兒となし措じ、我往かん、然れど復び汝等に來るべし、而て汝等の心情は權をされん、慶哉。

聖約翰福音書

十五章廿六節及十六章一節

維時 耶蘇其弟子等に言たまはく、父の所より我が遣さんとする保慰師、即ち父より發出する真理の靈臨む時、即ち我の爲に證を作ん、汝等も初より我と偕に在りたれむ亦證を作さん。

汝等が蹟かざらん爲に我は此等の事を汝等に諭せり。彼等將に汝等を會中より逐んとす、否な、凡そ汝等を殺す者みづから神に盡す所ありと思ふ時來らん。彼等は父をも我をも識らざるが故に、此等の事を汝等に爲んとす。我が此等の事を汝等に告げたるは、時來らん際に汝等をして我がこれを汝等に告げたりしを憶起さしめしん爲め耳。

使徒信經

奉献誦

天主は喝采の聲の裡に舉り、主は喇叭の音の中に昇れり。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは純潔して汚無き此犠牲が我等を淨め、我等の靈魂に天の聖寵を與へんことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖體奉擧の時の禱

(十五頁)

聖體奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

我父よ、我彼等と偕に在りし時、汝の我に賦予へ給ひしもの等を保有ちたり、慶哉。今や我汝に往く、我それ

等を世より取去るを汝に求めず、唯願くは其等を惡より防護きたまはんことを。慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

主よ、我等恭しく主に祈求め奉つる、願くは主の聖き賜物を以て我等を養ひ、我等をして其恵を永く感謝せしめ給はんことを、我等の主 耶蘇基督に依て。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

四百十二

十 聖靈降臨大祝日

彌撒拜聽前之禱

(三 頁)

彌撒之始之禱

(四 頁)

入進誦

主の靈は宇宙に充てり、慶哉。彼は萬事を識り、又百般を語るをも知りしが如し。慶哉、慶哉、慶哉。(詩)願くは、天主は起ち、其仇敵は敗られ、神を嫌む者は遠けら

れんことを。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六 頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は當日 聖靈の光を以て、其使徒等の心を教へたまへり。願くは此同じ聖靈に依て、我等に正義の知識と愛情を與へ給はんことを、又彼をして常に其聖き慰藉を以て我等を満さしめ給はんことを。此 聖靈、及び 聖父と偕に永遠に統治し給ふ我等の主 基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

四百十三

使徒行傳 二章一節

ペンテコステの日満たる時、弟子等皆同じ處に集り在りしに、俄然迅しき風の如き大なる響の天より來るを聞きしが、彼等の坐せる家の内に充てり。同時に舌の形容なる焰の如きもの現はれ、岐分れて彼等各人の上に止まる、忽焉にして彼等は皆聖靈に滿され、聖靈が彼等の口に置く處の語に隨て、異なる方言を語り始めたり。偕其時敬虔に充てるユデア人、天が下の有ゆる國々の民來りてイエルザレムに在りき。此響起りし後、多數の人々集りけるが、彼等各々其方言にて語りしを聞て愕きあへ

り、皆駭き異みつ、曰けるは、此語る者等は凡てガリラア人ならず乎、如何にして我等各々の方言を語るを彼等より聞くや、バルテア人、メデア人、エラミテ人、及びメソポタミア、ユデア、カバドキア、ポント、アシア、フリギア、エジプト、及びシレネに近きリビア等に住める者、又ロマより來れる者、ユデア人ど、改宗せし人、クレート人及びアラビア人、皆〔曰へり〕彼等が我等の方言以て神の偉業を語るを我等は聞くと。

昇階誦

慶哉、慶哉。主の聖靈を遣はし給へ、而して萬物は

創造れん。主は地の面を革新めたまはん。慶哉。

聖靈臨りたまへ、信徒の心に満ち給へ、主の愛情の焰もて我等を熱したまへ。

續唱

聖靈臨りたまへ、天より御光の輝耀を發ち給へ。

貧者の父。恩惠の源泉、心の光明に在す者降臨りたまへ。

主は即ち秀たる慰藉主、靈魂の仁慈なる珍客、精神を爽快にする清涼劑なり。

勞れたる時の憩、暑き時の涼、憂ふる時の慰藉なり。

呼至て福なる光よ、主を信する者の心に格り充ち給へ。主の恩寵の冥助あるに非ざれば、人には全體罪ならざる所なし。

希くは汚れたるを淨め、乾ける者を潤し、病る者を癒したまへ。

我等の頑硬を靡かせ、冷ねたるを煖め、迷る道を正したまへ。

主を頼む信者に神聖なる七の恩賜を施し給へ。彼等に生涯善徳の功績を積しめ、救靈の域に導き、永遠の幸福を樂ましめたまへ。

維時 耶穌其弟子等に言ひたまひけらく、人もし我を愛せむ、吾が言を守らん、而して吾が父は彼を愛せん、且我等かれに臨みて、彼の内に居住をなさん。我を愛せざる者は吾が言を守らず。汝等が聽きたる言は我の「言に」非ず、我を遣したまへる父のなり、我なほ汝等と偕にをりて、此等の事を汝等に説けり。我が名にて父の遣はしたまはんずる保慰師、即ち 聖靈は一切の事を汝等に教へ、且我が汝等に言ひたらん一切の事を汝等に悟らしめん。我平和を汝等に遺す、吾が平和を我汝等に與ふ、世

の與ふるが如くには非ずして我これを汝等に與ふ、汝等の心をして憂へしむる勿れ、また怖れしむる勿れ。我が汝等に言へるを汝等は聞けり。云く、我去りて復汝等に來らんと、汝等もし我を愛せしならむ、我が父へ往くに因りて必ず喜むん、父は我よりも大なれむ也。其未だ成らざるに先だちて我今汝等に告たり、其の成ん時に汝等をして信するを得しめん爲なり。最はや汝等と多くは言はじ、此世の君來れむ也、彼は我に何をも有する無し。但し我は我が父を愛し且父の我に命じたまひし如く然か行ふを世の知らんことを欲する耳。

使徒信經

奉獻誦

嗚呼 天主、主が我等に行したまひしものを堅めたまへ。王等はイエルザレムの聖殿の内にて進物を主に呈げん、慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは我等が捧げ奉つる供物を祝じたまへ。聖靈の光を以て我等の心を淨めたまへ。此の聖靈と一致して永遠に統治したまふ我等の主、基督に依て、恭しく祈

り奉つる。亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

使徒等の集まれる處にて、俄然迅しき風の天より來るが如き響を聞けり、慶哉。彼等は皆聖靈に満たされ、天主の妙なる偉業を見たり。慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

主よ、願くは主の聖靈の注瀉が、我等の心を淨め、天上の甘露を灌ぎて之を沃饒ならしめ給はんことを。聖靈と一致して、聖父と偕に統治め給ふ我等の主、基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

(二十頁)

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)
彌撒後の禱 (二十四頁)

附 堅振之秘蹟を領けし後の禱文

嗚呼 聖靈、主が堅振の秘蹟に於て、其恩寵を我に與へ、來るべき諸の誘惑と窘迫とに對して、我を強め給ひしを深く感謝し奉つる。願くは我等の心に默示を降して、我等が享けたる恩寵に對し、其を徒くせざるやう、又世の恐懼に因て、天主と聖會の誠旋に背きて、諸の義務を

四百二十四
欠しめんど、我等の靈心を脅かす諸の危険に對して、我等を策勵し給はんことを。嗚呼、聖靈、主を悲ませ、主の默示に侍り、或は重き罪を犯して主に遠からんより、寧ろ死するの恩寵を予へたまはんことを。我恭しく主に祈り奉つる。亞孟。

○三位一體之祝日

彌撒拜聽前之禱
彌撒之始之禱

(三) 頁
(四) 頁

入進誦

聖三位にして分つべからざる一體の主、祝せられ給へかし。其慈惠を我等の上に灌ぎたまひしに因り、我等主を祝し奉つらん。(詩) 天主、我等の最上なる主、主の聖名は如何に全地に讚嘆せらるべき哉。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々
榮光之聖歌

(六) 頁

集禱文

全能永遠の天主、主は其奉事者に眞の信仰の表白に於て無窮なる三位一體の榮光を認め、主の稜威の權能に

於て、神性の一体を拜するの恩寵を降し給へり。願くは此同じ信仰の鞏固を以て、我等をして萬種の禍殃に對して堅固ならしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て恭しく願ひ奉つる。亞孟。

(聖靈降臨後第一主日の紀念)

嗚呼 天主、主は其信靠む者の力にて在ます。願くは慈悲を垂れて我等の祈願を聽容れたまへ。人間の孱弱さや主に藉らざれば何事も可能はざるに因り、忠實に主の律法を遵守りて、我等の心意と行爲の恒に主の聖慮に愜ふやう、我等に聖寵の保佑を降し給はんことを。我等の

主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與羅馬人書 十一章三十三節

嗚呼神の知識の富は深い哉、如何に其法度は測り難く、其踪跡は知り難きぞや。蓋し誰か神の聖慮を知り、誰か其決定に參與りしや、誰か其報を受けん爲め先づ彼に與へしや。萬物は彼より出で、彼に倚り、彼に歸れん也。願くは世々に榮光の神に在らんことを。亞孟。

昇階誦

冥府の内にも智天使の上にも在まし給ふ 主よ、祝せられたまへ、天の最高處に坐ます 主よ、祝せられたま

へ。願くは世々の榮光を受け給はんことを。

慶哉、慶哉。我等が祖先の神なる

主よ、祝せられた

まへ、世々に榮光を受けたまへ。慶哉。

聖馬竇福音書 廿八章十八節

維時

耶蘇其弟子等に曰ふやう、

天にても地にても一

切の權は我に賜はれり。故に汝等往きて萬國民を訓へ、父

と子と聖靈の名を以て彼等を洗せよ、凡て我が汝等に命

せし事を悉く守ることを彼等に訓へよ、視よ、我は世の

終末まで日々に汝等と偕に在るなり。

使徒信經

奉獻誦

聖父と其唯一の聖子と聖靈に在ます 天主、祝せられ

たまへ、是れ其慈悲を我等の上に灌ぎ給ひたれ也。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、我等主の聖名を呼びて願ひ奉つる、願くは我等

の献げ奉つる此祭饗を祝聖めたまへ、之に由て我等をし

て永久に主に捧げらるゝに勝ゆべき祭饗たらしめ給はん

ことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

(主日之紀念)

主よ、我等の捧げ奉つる供物を嘉し納めたまへ。願くは此供物をして我等に主の恩寵の連綿兮冥助を與へしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向に願ひ奉つる。 亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖體奉擧の時の禱

(十五頁)

聖體奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

我等は天に在ます 天主を祝し、又凡ての人の前に讚美せん、蓋し 天主は其慈悲を我等の上に灌ぎ給ひたれむ也。

聖體領後の禱

主よ、願くは此秘蹟の拜受と、聖にして無窮なる三位、及び其分つべからざる一體の信仰が、我等の靈魂と肉軀に救贖を授け與へんことを。我等の主 基督に依て敬で

願ひ奉つる。亞孟。

(主日の紀念)

主よ、主は其賜物を以て我等を飽かしめ、我等を健かならしめ給へり。願くは我等をして斷ぜず主を讚美し奉つらしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

聖路加福音書

第六章三十六節

(彌撒の終に於ける聖靈降臨後第一主日の福音)

維時 耶蘇其弟子等に曰はく、汝等の「天」父の亦慈悲

なる如く汝等慈悲なれ。人を是非する勿れ、然らむ汝等も是非せられじ、人を罪に擬むる勿れ、然らむ汝等も罪に擬められじ、宥せ、然らむ汝等も宥されん。與へよ、然らむ汝等も與へられん、必ず量を善し、壓つけ、揺こみ、溢らして汝等の懐にいれん、汝等が量らん所の量器にて汝等も量らるべけれ也。耶蘇亦譬喩を彼等に語りたまはく、譬者は譬者を相ひさし得るや、兩ながら坑に陥らざるや。弟子は其師に勝らず、凡て其師の如くなる者は全たし。汝なんぞ兄弟の目にある織塵を見ながら、己の目にある梁木を考へざるや。汝れのれの目に梁木あるを

自ら見ずして、如何ぞ汝の兄弟にむかひて、兄弟よ、請ふ我をして汝の目より織塵を除かしめよと言ふを得んや。偽善者よ、先づ己の目より梁木を除け、然らむ汝の兄弟の目より織塵を除くやう見ることを得ん。

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖體之祝日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主は最と清き良麥以て、其民を養ひ給へり。慶哉。主は巖より出し蜂蜜もて其民を飽かしめ給へり。慶哉。慶哉。我等の保護者なる天主を祝せ、歡喜以てヤコブの天主を謳歌せよ。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は其玄妙なる秘蹟に於て、我等をして

主の苦難を記念せしめ給へり。願くは斯く主の尊赫と寶血との聖祭を祝するの恩寵を我等に降し、我等をして主の行し給ひし救贖の功德を絶えず我等の靈心に感受しめ給はんことを。天主にて在ます主に依て一向願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與奇林杜人書第一 十一章廿三節

我兄弟よ、我が汝等に教へしことは、主より親く學びしもの也、即ち主 耶蘇交付さるゝ夜、麴餅を取り謝して之を擘き言けるは、取て食せよ、此は汝等の爲に交付さるべき我躰なり、汝等我紀念として如此爲せど。食し

て後、又爵杯を取り言けらく、此爵杯は我血にして新約の爵杯なり、汝等之を飲む毎に、我紀念として如此行すべし。汝等此麴餅を食ひ此爵杯を飲む毎に、主の死を表して彼の來る時まで及ぶべし。故に宜きに合はずして此麴餅を食ひ、此爵杯を飲む者は、主の體と血とに罪を犯すなり。されむ宜く人自ら糾明して後、此麴餅を食ひ此爵杯を飲むべし、そは宜きに合はずして飲み食ふ者は、主の體を辨へずして己れの刑罰を飲食するに因る。

昇階誦

主よ、諸受造物の眼は主に注げり。主は時機を察て彼

等の食糧を與へたまふ。主は其聖手を開き、萬の活る者を満すに善を以てしたまふ。

慶哉、慶哉。我肉は誠に食糧なり、我血は實に飲料なり。我肉を食ひ我血を飲む者は我に在り、我も亦彼に在る也。

續唱

シオンシオンの民よ、汝等の讚美歌と頌歌を以て、其救主を讚美せよ、其首領其牧者を讚美せよ。

汝等の及むん限り、其榮譽を宣傳へよ、蓋し主は總ての讚稱に超へたまへむ、汝等會て飲くるなく稱讚へ得し

こと非ず。

生命を賦予ふる活る麩餅こそ今日我等の殊に稱讚へ奉つるべきものには有るなれ。

我等は識る、此麩餅は聖晚餐の其節に、十二の宗徒に與へられにし者なるを。

願くは我等の讚美の著しく反響かんことを。我等の頌歌と喜悅の發作とは、温和にして壯嚴ならんことを。

蓋は此神の饗筵の建てられし日に、我等は公式に祝せんとすれむ也。

新なる王の此卓坏にて、新約の新たなる逾越節は舊き

逾越節を廢めけり。

此新たなる式禮は舊きそれを廢むる也。影象は實物の前に失せ、光明は暗夜を消すごとく。

基督は其晩餐の時行せしことを、已が紀念に行すべさやう命せ遣したまひけり。

此聖き例に法りて立てられつ、我等は此救靈の贄となるべき麩餅と葡萄酒を献げて祝り奉つる。

麩餅は肉となり、葡萄酒は血に化すとは、是ぞ基督を信する者に教へられにし定理なる。

汝等が悟了らぬもの、汝等が見ぬものも最と強き信仰

は、天然の秩序に關らず、善く汝等に證すなり。

異なる形色にて、實體なき假象の下に、最も貴き賜物は深く藏れて潜むなり。

其肉は食糧にして、其血は飲料なり。然りながら、基督は何れの下にも完全く坐しまし給ふ。

人之を拆つごとなく、擘くごとなく、毀ることなく、即ち全體受領るなり。

一個にても之を領け、千個にても之を受く、一個にても千個と等しく受るなり。之を消費することなく、萬衆

の人は養はる。

善人も之を領け、悪人も之を受く、されど其功果に於ては差異あり。即ち一は生命を獲、他は死亡を受る也。此者は、悪人の爲には死、善人の爲には生命なり。視よ、如何に同じ養糧にて異なる功果を生ずるかを。假象は假令擘かるゝ時にても、汝等の信は變らざれ却て憶起へ、基督は完き祭餅に於けるが如く、其小片の下にても全體坐したまへるを。本質は如何にするとも拆たれず、象られたる其ものは、形状或は容量に於て減らさるゝこと更に無く、唯單り表象のみこそ解裂たるれ。

視よ、人類の養糧となるべき天使の麩餅を、是れぞ寔に犬に抛つべからざる小兒等の麩餅たる也。此ものは、豫て舊約の諸の表象の下に、即ちイザアンの犠祭、逾越節の羔の屠牲、及び我等の祖先に與へられたるマナに於て代表られき。善牧者、眞の麩餅なる 耶蘇、我等を憐み給へ。願くは我等の養糧となり、我等の保護となりて、我等をして活る者の地に於て眞の幸福を樂ましめ給はんことを。限無き智慧と權能に在ます 主よ、主は己の肉を以て我等を養ひ給へり。願くは我等をして現世に生存ふ間は、

常に主の食卓に参からしめ、他日其遺産に與かり、聖都の住民の群に入らしめ給はんことを。亞孟。慶哉。

聖約翰福音書 六章五十六節

維時 耶蘇已が四周に集まれる猶太人に告げて言ふやう、我肉は眞に食物なり、又我血は眞に飲物なり。吾が肉を食ひ、吾が血を飲む者は、我に居り、我また彼に居る。活る父われを遣はしたまへる如く、また我父に由りて活る如く、我を食ふ者も亦是即ち我に由りて活さん。此こそは天より降れる麪餅なり。汝等の先祖たちがマナを食ひて猶死せし如くには非ず、此の麪餅を食ふ者は永

遠に生きん。

信徒信經

奉献誦

(九 頁)

主の司祭等は香と麪餅とを 天主に捧げ奉つる。然れを彼等は其 天主の爲に、聖き事どもを能く維持ち、其聖名を瀆すことあらざらん。慶哉。

司祭麪餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、我等恭しく願ひ奉つる、願くは我等の捧ぐる献物に由りて、玄妙なる方法もて表象られし一致と平和の

賜物を、主の聖會に與へ給はんことを。我等の主、基督に依て。亞孟。

序誦

司祭典文を読む時の禱

(十二頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十三頁)

聖體奉擧の時の禱

(十四頁)

聖體奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

汝等此麴餅を食ひ、此爵杯を飲む毎に、主の死を紀念して其來る時まで及びべし。抑も人宜きに合はすして此麴餅を食ひ、主の爵杯を飲むを、主の體と血に罪を得ん。慶哉。

聖體領後の禱

主よ、願くは主の尊體と寶血との一時的受領に由て擬へられたる主の神性の保有を以て、永久に我等を飽かしめ給はんことを。聖父と偕に活き且統治したまふ。天主にて坐ます主に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖靈降臨後第二主日

(聖體之祝日後八日の内の主日)

凡て聖體之祝日と同じものを用ふ(四百卅四頁を見よ)
集禱文

主よ、主の攝理は堅く主を愛するを主に學びたる者等を捐棄たること非ざれむ、願くは我等をして常に主の聖名を畏こみ愛し奉つらしめ給はんことを。我等の主、基督に依て一向願ひ奉つる。亞孟。

聖路加福音書 十四章十六節

維時 耶穌フアリゼオ徒の中なる某領袖の家になれいて、偕に宴する者の一人に言たまひけるは、或人大なる晚餐を設けて許多の者を請べり、而して晚餐の時刻に其僕を遣はしつ、招かれある者等に言しむらくは、一切の物早整頓たれむ、來れよと。然るに彼等みな一同に辭し始め

つ、第一の者これに言けらく、我や田庄を買たれを、必
 らず往て之を觀ざるべからず、請ふ、我を辭したる者と
 せよと。次の者言けらく、我や五耦の牡牛を買たれを、往
 きて之を試みんとす、請ふ我を辭したる者とせよと。そ
 の次の者も亦言けらく、我や妻を娶りたるが故に、參る
 こと能はずと。僕すなはち歸りて是等の事をその主人に
 告たりけれを、家父怒りて其僕に言けらく、速に邑の通
 衢々々れよび街巷々々に出ゆきて、貧しき者、廢缺なる
 者、盲瞽なる者、及び跛蹇なる者を茲に引きたれ。僕「復
 命して」曰く、主よ、汝の命じたまへる如く爲しぬれと

も、尙餘地あり。主人すなはち僕に言けるは、道路や藩
 籬の下に出ゆき、人々を強來らしめて、吾が家に盈しめ
 よ。我汝等に告ぐ、此等招かれたる人々の中には一人も
 我が晩餐を嘗ふ者なかるべし。

○吾主之聖心之祝日

(聖體之祝日八日目後の金曜日)

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

(三頁)

(四頁)

入進誦

主の惻怛は其寵愛の廣袤に等し、是れ其聖心は人の子等を賤しき棄て給はざるに因る。主は正しき心靈以て主に望み、主を索むる者の爲に、最と懇篤に在ますなり。慶哉、慶哉。(詩)我窮り無く、代々に主の慈愛を謳歌ひまつらん。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

(六頁)

全能の 天主、願くは我等をして、主の最と愛くしみ

たまふ御子の聖心の内に、我等の爲に盡したまへる其愛情の主要なる恩恵を崇め祝はしめ、茲に喜悦の素因と、救霊の功果とを發見さしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督躬らに依て願ひ奉つる。亞孟。

以賽亞書 十二章

嗚呼我 天主よ、我汝に感謝すべし、汝先に我を怒り給ひしかど、其憤怒は静まりて、我を慰めたまへり。我天主は我を救ひぬ、我信頼みて恐懼る、所なかるべし。主は我力、我榮光なり。我救主たりしものは彼なり。忠信なる人民よ、汝等欣喜を以て救主の泉より汲むべし。其

日汝等言ふならん、主を讚めよ、其名を呼べ、其名の崇むべきことを憶起へよと。主の榮光を謳歌へ、汝等に最と麗はしく現はれ給ひたれ也。其崇むべきことを全地に傳へよ。シオンに住民よ、懼びて天主を頌揚へよ、イラエルイラエルの聖者は汝等の中にて大なれ也。

昇階誦

汝等此道を過る衆の者よ、我悲痛の若き悲痛あるかを思へ、且見よ。耶蘇は此世に於て在りし所の朋侶を愛しつ、終りまで愛したまひき。

慶哉、慶哉。我が心の柔和謙遜なるを我に學べ、然ら

を汝等は其靈魂の休憩を獲べし。慶哉。

聖約翰福音書 十九章三十一節

維時(預設日なりしかを)是等の死屍をして安息日に(是れ大安息日なりけれを)十字架上に留らしめざらん爲に、ピラトに彼等の脛を折りて之を取り去らんことを乞へり。因て兵卒至りつ、首の者、並に之と偕に十字架に釘けられたる他の者の脛を折りしが、耶蘇に至るに及びてや、其已に死してあるを見たれを、之が脛を折ざりき。但し兵卒の一人槍もて彼れの脇を開きしに、血と水直ちに流れ出でき。親ら見し者證を作す、其證は確實なり。

使徒信經

(九頁)

奉獻誦

呼我靈よ、主を祝し奉つれ、主の恩恵を忘れざれ。汝が諸の希望を満す者は、是れ主にて在ますなり。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは此燔性を捧げまつる我等を護りて、其を領るの準備を最と善く爲し得ん爲め、主の慈愛の焰を以て我等の心を包圍み給はんことを。永遠に活き且統治したまふ 天主にて坐ます 主に依て一向願ひ奉つる。亞

孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

我心の期する所は已に侮蔑と悲痛の外あらず。我災害に同情を寄する者を我は望みぬ、されど其は徒しかりき。我は一の保慰師を求めぬ、而も曾て發見し得ざりき。慶哉。

聖體領後の禱

我等の天主、心の柔和謙遜なる主よ、主は平和の快味と救靈の秘蹟を以て我等を養ひ給ひぬ。仰ぎ願くは我等をして諸の不徳より免れ、現世の虚誇と驕傲に對して戰兢の心を懐かしめ給はんことを。永遠に統治したまふ天主にて在ます主に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖心に向ふ禱文

(聖女ジュエルトルド)

嗚呼 耶蘇の聖心、永久の生命を與ふる活る源泉、神の無盡藏、神の愛の熾なる火爐よ、我汝に尊敬を捧げ奉つる。汝は我休憩場我避難處にて坐ます也。嗚呼我神な

る救主よ、主の心を包圍める愛熱を以て我心を熱したまへ。主の心より湧き出る大なる恩寵を我心に灌ぎたまへ。我今より後主の聖意の、我凡ての希望、諸の行爲の法規たらんことを望み奉つれを、願くは我心をして主の心と一致せしめ、主の聖意の我意たり、我意の永久に主の聖意たるを得しめ給はんことを。亞孟。

○聖靈降臨後第三主日

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

入進誦

主よ、聖眼を我に注ぎ給へ、我を憐みたまへ、蓋し我は寄怙なく憫焉なる者なれ也。我患難と辛苦とをみそなはし、我凡ての罪科を赦し給へ。(詩)主よ、我靈は主を仰ぎ望みぬ。嗚呼我 天主よ、我は主に倚頼み奉つる、我愧しめらるゝこと無るべし。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

嗚呼、天主、主は倚頼む者の保佑者に在ます。若し主の保佑なくんを、人には素より力なく、又聖きこともなし。されど我等主を牧者と仰ぎ嚮導者と戴きて、永久の福祉を喪はざるやう、現世の幸福を經過さん爲め、願くは主の慈愛の効果を我等の上に加へ給はんことを。我等の主、基督に依て謹で冀ひ奉つる。亞孟。

伯多祿書第一 五章六節

我最愛する者よ、汝等神の大能の手の下に已を卑らうすべし。是れ彼が其臨る時に汝等を高めん爲なり。汝等その諸の憂慮を神の聖懐に托すべし、蓋は彼親ら汝等を願

みたまへを也。謹慎め警醒け、蓋し汝等の仇敵なる惡魔吼る獅子の如く食ふべきものを求めて、汝等の周圍を徘徊れをなり。されど世に散在る汝等の兄弟も、汝等と同じ憂慮を受けるを知りて、信仰の内に閉籠り之を禦ぐべし。然れど汝等若し暫時苦みを忍むん時は、我等を耶蘇基督に在る窮無き榮光に招きたまひし諸の恩寵を與ふる神は、汝等を完うし、堅くし、強くし給ふべし。願くは榮光と權能の世々神に在んことを。亞孟。

昇階誦

汝等諸の憂慮を主の聖懐に托すべし。而して彼は汝等

を養ひたまはん。我れ主に向て呼びし時、主は我聲を聴き給ひき。彼は我を害はんと欲せし者より我を援ひ取りたまひぬ。

慶哉、慶哉。天主は公平にして又強く、而も能く忍べる審判者なり。彼は日々、其怒を發現はし給はず。慶哉。

聖路加福音書 十五章一節

維時收税官と罪人等、耶蘇に聆んとて之に來り就きぬ、
フアリセオ徒と學士輩吐きて曰く、斯の人は罪人を接け、
且之と偕に食すと、耶蘇彼等に此譬喩を語りて曰く、汝
等の中何人が百頭の羊ありて、若し其一を失はば、九十

九を野に舍つ、其迷失たる者を遂に看出すまでは追行ざらんや、而して若し之を看出したらん、喜びて之を己の肩に乗せ、家に還るや、其朋友と隣人を呼集めて、之に言ん、我失たる吾羊を看出したれん、我と偕に喜べど。我汝等に告ぐ、一箇の罪人悔悛むるあれん、悔悛むるを要せざる九十九人の義者のためよりも、天にては斯く喜悅あるべし。或はまた孰の婦人が十ドラクマありて、其一ドラクマを失はば、燈火を燃して家を掃き、遂に之を看出すまでは勤めて捜さざらんや、而して之を看出したる時には、其朋友と隣人を呼集めて言はん、我その失ひた

るドラクマを看出したれど、我ど僭に喜べど。我汝等に告ぐ、一箇の罪人が悔悛めたる爲には、斯こそ神の聖使たちの前に歡喜あるなれ。

使徒信經

(九頁)

奉獻誦

主よ、願くは主の聖名を識れる者等が常に舉りて主に頼み奉らんことを。主を索むる輩を主は棄て給はざれ也。シオンの中に住まりたまふ主に讚美を歌ひ奉つれ、蓋し主は被害者の哀訴を忘れ給ひしことあらざれ也。司祭麩餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱

微唱禱

主よ、慈悲を垂れて、聖會が其祈願と共に献げ奉つる供物を顧みたまへ。願くは主を信する者等に、常に穢なき心を以て此供物を領け奉つる恩寵を降し、我等をして永遠の救靈に到らしめ給はんことを。我等の主 基督に依て一向冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麩餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱

四百六十八

主禱文

(十五頁)

神羔誦

(十七頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

(十八頁)

我汝等に告ぐ、唯一箇の罪人が悔悛めたるに由り、天主の聖使たちの間には大なる歡喜ありと。

聖體領後の禱

主よ、願くは我等の領け奉つれる聖き秘蹟が我等に新たなる生命を與へ、我等を淨めて主の窮なき慈悲に與か

らしむるやう、我等を整へ備へんことを。我等の主 耶穌基督に依て一向願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖靈降臨後第四主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主は我光明我救援なり、我誰をか怖れんや。主は我生命の保護者なり、誰か我を戦慄かしめ得んや。我が不義なる迫害者は、其暴力を失ひて遂に斃るゝを我れ見にき。

(詩) 敵の軍隊が我面前に列びし時も、我心は恐怖ることやあらざりし。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

主よ、慈悲を垂れて、主の聖會が此太平を樂みつ、喜びて其信心の熱誠を主に顯はさん爲め、此世の進運の安寧平和となるべきやう、我等に許容したまはんことを。聖父と聖靈と偕に世々統治したまふ我等の主 基督に依て。

亞孟。

聖保錄與羅馬人書

八章十八節

我兄弟よ、我想ふに現生の苦は、他日我等の蒙くべき

其光榮に比ぶべくもあらず、蓋し受造者の待ち望む所は、其目的の神の諸子の出現に在り、是れ受造者の虚無に歸らせらるゝは、彼等自の望にあらず、之を販らする者に因り。又受造者は神の諸子の光榮なる自由に與らん爲め、自ら敗壞の從屬たることを脱れんとの希望を有て也。蓋し我等は知る、目下の間は萬の受造者は此期望の内に宛も子を産む者の勞苦に在るが如く艱めるを。唯彼等のみならず、聖靈の初て結べる實を有てる我等は殊に神の義子と成ること、即ち我等の主 耶蘇基督の内に、我等の體軀の救贖たるべきものを待ちつゝ心の内に艱むなり。

昇階誦

主よ、異邦人等をして、彼等の神は何處に坐すぞ言はざらしめん爲め、我等の罪を赦したまへ、嗚呼我等の救主なる 天主、我等を扶け給へ、主よ、願くは主の聖名の榮光のため、我等を救ひ給はんことを。
 慶哉、慶哉。嗚呼 天主、主は其實座に坐したまひ、義者すら審判したまふ。願くは惘然なる者等の艱難に於て、其避難處となり給はんことを。慶哉。

聖路加福音書 五章一節

維時 耶蘇ネサレトの湖の畔に立てありけるが、二

隻の舟の湖に泊れるを見たり、但し漁者は既に下りて、其網を洗ひをれり。其舟の一隻はシモンのなりしが、耶蘇イエス廻ち之に登りつ、請ふて陸より少しく離れしめ、方に坐して舟の中より群衆を訓へたり。講じ竟るや、シモンに言たまはく、沖に乗りいだし網を下して漁れ。シモン答へて彼に白しけるは、先生我等終夜勞して何をも獲ざりき、然ど汝の言に任して我網を下さんと、即ち然か爲したれど、魚を圍める尤も夥たしくして、其網裂かゝりぬ。因て來り輔けしめんとて、他一艘の舟にをれる伴侶を指麾さけれを即ち到りて、兩方の舟に満載し、殆ど沈

まんをかりなりき。シモン、ペトロ之を觀るや、耶蘇イエスの足下に俯伏て曰く、主よ、我を離れたまへ、我は罪人のみど。是は彼も、彼と共なる人々も皆其漁り獲たる魚の盛なるに驚きたれをなり。セベデオの二子ヤコボとヨハネ、即ちシモンの伴侶たる者も亦然り、耶蘇イエスシモンに言たまはく、懼るなかれ、今より後汝は人を漁らんとす。彼等やがて其舟を岸に漕ぎ着けつ、一切を捨て 耶蘇イエスに従へり。

使徒信經

奉獻誦

我が死の中に睡らざる様、又我仇敵の他日我に勝てり
と言はざる様、我眼を明かならしめ給へ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、我等の捧げ奉る供物に由て聖心を和げたまへ。願
くは主の愛憐が我等の意欲を其抵抗に關らず主に引向け
たまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。
亞孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱 (十二頁)
(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

主は我保護者、我受怙者、我救援者に坐ます、我
主は寔に我扶持者なり。 天

聖體領後の禱

主よ、願くは我等が領け奉つれる秘蹟の我等を淨め、其功徳の我等を衛り得んことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)



彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖靈降臨後第五主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、我聲音我喚呼を聽きたまへ。嗚呼、我救主なる天主、願くは我扶助となりたまへ、我を棄て、我を擯け給はざれ。(詩)主は我光明、我救援なり、我れ誰をか恐怖れんや。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

嗚呼 天主、主を愛し奉つる儕輩の爲に、主は無形の財寶を備へ給へり。仰ぎ願くは我等が萬事に超て全く主を愛しつ、其一切の願望に超る御契約の財寶を獲ん爲に、我等の心に主の愛情を灌ぎ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

伯多祿書第一 三章八節

我最親愛なる兄弟よ、汝等祈る時は儕に心を同らし、互に仁恕の心情を有ち、同胞主義を行んことを、即ち慈愛

に充ち、叮嚀と謙遜に伴へる懇情の汝等相互の間を統理んことを。惡を以て惡に報ゆる勿れ、訴を以て訴に酬ゆる勿れ、卻て汝等を詬罵る者の爲に祝福すべし、蓋は汝等の召れたる所以は、汝等の爲に備へられたる神の福祉を、他日遺産の如くに嗣ん爲なれむ也。夫れ生命を愛し、善き日を送らんと欲ふ者は、其舌を制へて惡を言はず、唇を緘ぢて詐譎を語らず、惡を避けて善を行し、平和を求めて之を得んことを瞞むべし。蓋し主は義人の上に「慈ある」眼を注ぎ、義人の祈禱を右耳を傾けて聽きたまへども、惡人には「怒れる」面容を示し給へむなり。汝等若し善の

外求むるなくん心誰か汝等に惡を爲し得んや。縦令汝等義の爲に苦めらるゝども、汝等は幸福なり。然れど汝等を脅かさんとする惡に對して懼るゝ勿れ、亦之を憂ふる勿れ、却て汝等の心の中に、主なる 耶蘇基督の聖きことを崇讃むべし。

昇階誦

嗚呼我等の扶持者なる 天主、聖眼を我等に注ぎたまへ。主の僕を顧みたまへ。主なる軍隊の 天主、主の僕等の祈願を聽容れたまへ。

慶哉、慶哉。主よ、王は主の力に依頼み、主の與へた

まふべき救靈の中に樂まん。慶哉。

聖馬竇福音書 五章二十節

維時 耶蘇其弟子等に宣はく、我汝等に告ぐ、汝等の義もし學士とフアリゼオ徒の義に勝らずむ、汝等天國に入るを得じ。古の人に「誥て」曰れたるを汝等聞けり、殺す勿れ、殺す者は審判を免れずと。我汝等に告ぐ、凡そ其兄弟に怒る者は審判を免かれず。其兄弟に愚物よと曰ふ者は議會を免かれず、狂妄者よと曰ふ者は火のケヘンナを免かれず。是の故に汝その禮物を祭壇に献ぐるに方りて、若し汝の兄弟に怨まるゝ所あるを其處に憶ひ出さ

と、其禮物を其處に祭壇の前に舍き、先往きて汝の兄弟
と和げ、然る後來りて汝の禮物を献ぐべし。

使徒信經

(九頁)

奉獻誦

我は知慧を賦予へたまひし主を崇めん。我は常に我眼
前に主を置かん。我が動搖かされざらん爲め、主は我
右に坐したまふ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、我等の恭しく捧げ奉つる祈禱に由て聖心を和げ

たまへ。願くは主の僕婢等の各自献げ奉つりし供物が、主
の聖名の光榮と彼等の救靈とに功績あらん爲め、其を懇
切に嘉し納め給はんことを。我等の主 基督に依て一向
願ひ奉つる。 亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を読む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

我は

主に一事の他は請はざりき、我絶えず其を祈求め奉らん。其は即ち終生常に主の聖殿に住ふこと是なり。

聖體領後の禱

主よ、主は天の賜物もて我等を養ひ給へり。願くは我等をして己が隠れたる過失より脱れ、仇敵の隠謀より免かれしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(三十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖靈降臨後第六主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主は其民の力なり、主は其信徒の保護者、又救贖主なり。
 仰ぎ願くは主の民を援ひたまへ、主の嗣業を祝したまへ、
 主の子等を永久の榮光に導き給へ。(詩)主よ、我れ主に對て呼はる、
 嗚呼我 天主、聖唇を緘み給はざれ、我れ恐くは黄泉の底に陷れる者の如くなるべけれを也。
 (榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

(六 頁)

榮光之聖歌 集禱文

諸徳の 天主、一切の善の唯一なる作者、願くは我等

の心に、主の聖名に對する愛情を銘記し、聖教の良能を我等に増して、主より受け奉つれる善事を殖やし、敬虔の爲に凝れる眞味を味ひつ、我等の心に其善事を保有たしめ給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て願ひ奉つる。 亞孟。

聖保錄與羅馬人書 六章三節

我兄弟よ、我等は皆 耶穌基督に於て洗せられつ、其死に於て洗せられしことを汝等知らざる乎。蓋し我等は罪に於て死すべき爲に、洗禮に由て彼と共に埋られたれを也。是れ 耶穌基督が其父の榮光に由て死者の中より

避へされしごとく、我等も亦新しき生命に歩むべき爲なり。
 我等もし彼の死の状に等しからむ、又復生に於ても
 等しかるべし。即ち我等の舊人が彼と共に十字架に釘け
 らるゝは、罪の身滅びて、我等の今より罪に役へざる爲
 なるを我等は知る。蓋は死せる者は罪より釋さるれ也。
 されむ若し我等基督と共に死なむ又彼と共に生んことを
 信ず、是れ基督の死者の中より甦りて復死なす、死も亦
 彼の上に權力なからんことを知れ也。即ち彼の死に就
 ては罪の爲に唯一度死せしのみ、されむ今有てる生命に
 就ては、神の爲に活る也。汝等も亦我等の主 耶蘇基督

の内に、罪に就ては如此死して神の爲に活くる者なりと
 思ふべし。

昇階誦

主よ、我等に復歸りたまへ、主の僕等の祈禱に由て聖
 心を和げたまへ。主よ、主は代々に我等の庇護者に坐せ
 り。

慶哉、慶哉。主よ、我れ主に倚頼み奉つりぬ、我愧し
 めらるゝことなかるべし。主の公義に由て我を釋したま
 へ、我を救ひたまへ。願くは我聲に聖耳を傾け、我救助
 を躊躇ひ給はざらんことを。慶哉。

維時群衆仍も夥だしかり、食ふべき物すでに無ししが、
 耶蘇乃ち弟子たちを召集めて、之に言たまひけらく、我
 こそ群衆を恤む、彼等われと共に既に三日續て居り、今
 や食ふべき者なし。若し空腹にして之を其家に去しめな
 心、途上にて弱らん、其中には遠方より來れる者われを
 也。其弟子たち彼に答へけるは、此に野にて誰か何處よ
 り麩餅を獲て彼等を飽かしめ得べき。耶蘇彼等に問たま
 はく、麩餅幾頭有るや、彼等曰ふ七頭。耶蘇群衆に命
 じて地に坐せしめ、七頭の麩餅を取り、謝して擘き、入

々の前に陳しめんとて弟子等に與へけれむ、則ち之を群
 衆の前に陳けり。また些少の小魚を有たれむ、之をも祝
 して、命じて人々の前に陳しめたり。皆食ひて飽き、殘
 餘の屑七筐を拾へり。食ひし者は大凡四千一人なりき。斯
 て耶蘇は彼等を去らしめぬ。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

我れ主の道を踏み迷ふことなからん爲め、我足の運を
 鞏固めたまへ。慈悲の聖耳を傾けて我祈願を聽き容れた
 まへ。主よ、其倚托む者をを援ひたまふ主よ、願くは主

の慈愛を明白に示し給はんことを。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、我等の願の空しからず、我等の祈の徒ならざらん爲め、我等の恭しき祈禱に由て、聖心を和げたまへ。慈悲を垂れて主の民の此供物を饗けたまへ。願くは我等が強き信心もて主に求むるものを、我等に獲しめ給はんことを。我等の主 基督に依て肅んで願ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を読む時の禱

(十二頁)

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

我れ進前まん、而して主の幕屋に於て歡喜の犠牲を捧げん、我れ主に讚美を謳歌ひ奉らん。

聖體領後の禱

主よ、我等は主の賜物もて養はれたり。願くは其功徳に由りて我等の淨められ、其保佑に由りて我等の強めらるべき聖寵を降したまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向に願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(三十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖靈降臨後第七主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

諸の民よ、舉て喝采げよ、歡呼て 天主の尊前に汝等の喜悅を表すべし。(詩) 蓋し主は最高者、畏るべき神、全世界を治めたまふ大王にて在ませむなり。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

主よ、主の攝理は其進行の中に過つこと曾て爲し。然れを我等謹で主に願ひ奉つる、願くは我等の靈魂を害ふべき一切の者を我等より遠ざけて、主の奉事に我等の靈魂を進むべき一切の者を、我等に授け給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て。亞孟。

聖保錄與羅馬人書 六章十九節

我兄弟よ、汝等の肉軀弱さに因りて、我汝等に懇篤に語る也。汝等不正を犯さん爲め、其肢體を汚穢と不義の僕たらしめし如く、今又汝等の成聖を行ん爲め、其肢體

を献げて義の僕たらしむべし、蓋は汝等罪の奴隸たりし時には義に事へしことあらざれ也。汝等が今耻る處の事を行ひし其時、如何なる果を得たりしや、此等の事の終極は死の他なけれ也。されど今や罪より釋されて神の僕となりたれを、汝等は其成聖なる果を獲て、永生なる榮譽の終極に進む也、蓋し死は罪の値、償なれども、永生は我等の主 基督に於て神の我等に與へ給へる恩寵なれ也。

昇階誦

我兒等よ、來りて我に聞け、我汝等に 主の畏敬を教

ゆべし。主に近づき奉つれ、而して汝等照輝されて侮辱しめらるゝこと無るべし。

慶哉、慶哉。諸の民よ、擧て喝采げよ、歡呼で天主の尊前に汝等の喜悅を表はすべし。慶哉。

聖馬竇福音書 七章十五節

維時 耶蘇其弟子等に言たまはく、偽預言者を謹め、彼等は綿羊の衣して汝等に臨めども、内は殘暴き豺狼なり。其の果に由りて彼等を識るべし、豈荆棘より葡萄を、蒺藜より無花果を採んや。斯く凡て善き樹は善き果を結び、惡き樹は惡き果を結ぶなり。善き樹には惡き果を、惡き

樹には善き果を結ぶ能はず。凡て善き果を結ぶざる樹は斫れて火に投いれらるべし。是故に汝等その果に由りて彼等を識るべし。我に主よ主よと曰ふ者みな天國に入るにあらず、天に在す我が父の旨を行ふ者、斯れ天國に入るべし。

使徒信經

奉献誦

主よ、願くは我等の犠牲が多數の牡羊、牡牛、數千の肥滿る羔の燔牲を捧げ奉つりしと等しく、今日、主の聖意に適はんことを。蓋し主に倚怙める者は未だ曾て愧し

められしこと非ざれ也。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

嗚呼 天主、主は舊約に於ける種々なる祭贄を、唯一にして完全なる犠牲に合せ給へり。願くは主の僕等が聖き稜威を尊びて捧げ奉れる犠牲の、彼等の救靈に功績あらん爲め、其ものを納めたまひて、アベルの供物を祝し給ひし如く、掩祝もて之を祝聖め給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て一向に願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

主よ、聖耳を傾け給へ、我等の救援を躊躇ひたまふこと勿れ。

聖體領後の禱

五百四

主よ、願くは恩寵を降し、此秘蹟の徳能に由て我等を
罪科より釋放し、益々正義に進ましめ給はんことを。我
等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時
の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖靈降臨後第八主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、我等は聖殿の内に於て主の慈愛を蒙れり。世界
舉りて主の聖名を謳歌ひ、主の光榮を崇め、主の正義を
宣べ傳ふ。(詩)主は高貴にして一切の讚稱に値へ給ふ。其
威光は聖都の内、住まりたまふ聖山の上、到處に耀けり。
(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

五百五

主よ、我等主に願ひ奉つる、願くは我等が主に離れて
 此世を過し得ず、善く主の聖旨に副へる生活をなさん爲
 め、聖寵を降し、我等をして常に正義に合へる方法を講
 じ、且行なはしめ給はんことを。聖父と聖靈と偕に世々
 統治したまふ我等の主 基督に依て。亞孟。

聖保録與羅馬人書 八章十二節

我兄弟よ、我等は肉に従ひ役へざるを得ざる程、肉に
 屬せる者にあらず。汝等若し肉に従ひ役へなむ死すべし、

然れど若し靈に由て肉の行爲を滅さむ生くべし。凡そ神
 の靈に驅られ導かるゝ者は神の兒子たれ也。汝等又今
 も恐懼を以て導かれんとて、奴僕たる者の靈を受しにあ
 らず、我等が父よ父よと呼ぶ處の義子たるの靈を受けし
 なり。此靈こそ自ら我等が神の兒子たるを我等の靈に證
 しするなれ。我等もし神の兒子たらむ又神の嗣子にして、
 基督と共に後嗣たるべき者也。されど彼と偕に榮光を受
 けんとせむ、彼と偕に苦を受けざるべからず。

昇階誦

願くは 天主は我が爲に保護者たり、我救靈を見出し

得べき避難處にて坐すさんことを。嗚呼我天主、我は主に歸依み奉つりぬ、主よ、我は愧しめらるゝこと無るべし。

慶哉、慶哉。主は高貴にして一切の讚稱に値へたまふ。其威光は聖都の内、住まりたまふ聖山の上、到處に耀けり。慶哉。

聖路加福音書 十六章一節

維時 耶蘇其弟子等に言たまひけるは、茲に富人ありて、一箇の家宰を有したりしが、其者主家の財産を耗せしと訴へられしかむ、則ち之を呼びて、之に言けるは、

汝の身につきて我が聞たる所は何事ぞや、汝が家宰たる間の會計を呈出せよ、汝は最早家宰たることを得ざれば也。家宰心の中に言けるは、吾が主人われより家宰の職を褫ひたれむ、「今より」何を爲すべきや、土を掘るには堪へず、食を乞ふは羞かし、我爲すべき事を知れり、吾が家宰の職を罷られたらん時人々をして我を其家に接いれしめんと。是に於てか彼その主人に負債ある者を悉く呼あつめ、先その首なる者に言らく、汝は吾が主人に幾何の負債あるや。曰く、油百樽なり。家宰これに言けるは、汝の契券を取り、急ぎ坐して五十と書けよ。然る

後次の者に言らく、汝は幾何の負債あるや。曰く、麥百斛なり。家宰これに言けるは、汝の契券を取りて八十と書けよ。斯く其爲す所の巧智ければ、主人も其不正なる家宰を譽たり、如何となれん斯の世の子等たるや、其社會に於ては、光明の子等よりも卻て巧智ければなり。我汝等に告ぐ、汝等も不正の財寶を以て友をつくれ、庶幾くは汝等命盡る時に於て彼等なんぢらを永遠の住宅に接いれん。

使徒信經

奉献誦

主よ、主は謙遜なる輩を救ひ、驕傲なる輩を卑め給はん、蓋し奚で主より他の神あるべけんや。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは御恩恵を垂れて、我等が献げ奉つる供物を納め、此聖祭をして主の恩寵に由り、現世の行程に於て我等を聖ならしめ、我等を永久の幸福に導かしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を読む時の禱

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

主の如何に甘和なるかを味ひ見よ、主に依屬む者は福なる哉。

聖體領後の禱

主よ、我等主に拜禮を捧げて此秘蹟の効果を享けん爲め、願くは此天の秘蹟が我等の靈魂と肉躰とを更新ならしめんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)

○聖靈降臨後第九主日

五百十四

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

入進誦

(三頁)

(四頁)

天主は我援助に来る、主は我生命の保護者なり。主よ、我仇敵の我に加へんとする兇惡を彼等の上に抛ちたまへ。主の聖言の眞理に循て彼等を滅したまへ。嗚呼我保護者なる天主哉。(詩)主よ、聖名の爲に我を救ひ、權威に依て我を釋したまへ。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

(六頁)

主よ、御冥加を求むる儕輩の祈禱に慈悲の聖耳を傾けて、彼等の願意を聽容れたまへ。願くは彼等をして主の聖意に適ふものゝみ祈求め奉つるやう爲さしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向願ひ奉つる。 亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第一

十章六節

我兄弟よ、我等は宜しく我等の祖先が耽りし如く、惡

五百十五

き慾望に耽るべからず、民は飲食する爲に坐し、舞ふ爲に起てりと録されたる彼等の中の或者の如く、汝等偶像を拜む者となる勿れ。又奸姦を行ひし罰として一日に二萬三千人死されたりし人々の或者に倣ひて汝等罪を犯す勿れ。又蛇に殺されたりし者等の或者が 基督を試みし如く汝等彼を試むべからず。又壞滅師なる神の使に死されたりし或者の怨言ける如く汝等怨言くべからず。借彼等が遇へる此凡ての事は鑒となれり、且此等の事の録されたるは末世に遭へる我等の爲に訓戒となるべき爲なり。然れを自ら立てりと信する者は倒れざるやう慎むべし。汝

等が遭ひし試誘は人の常ならざりしを我祝す。神は信なる者なり、汝等の力に超て試誘らるゝを容したまはじ。却て汝等をして自己の心を堅め得ん爲め、此試誘によりて益する處あらしめ給はん。

昇階誦

我等の救主なる 天主、主の聖名は任歴に全地に讃嘆へらるべき哉。主の光榮は天の上まで升るなり。
慶哉、慶哉。嗚呼我 天主、我を仇敵より脱したまへ。我を窘迫る者より救ひたまへ。慶哉。

聖路加福音書 十九章四十一節

維時 耶蘇イエルザレムに近づけるや、都城を望み、之が爲に泣きて曰く、噫、此なんぢの日に於て汝また若し汝の安危に關はる事等を知りたらむ幸ならんに、今や此等の事汝の目に隠れたり。即ち日將に汝に臨まんとす、其時には汝の敵は汝の周邊に壘を築き、汝を取圍みて、四方より汝に逼らん。而して汝と汝の内なる子女を地に打倒し、汝の内にては一の石をも石の上には遺さじ、汝をの臨まるゝの時を知らざれむ也。耶蘇聖殿に入るや、其裏にて賣買する者等を逐いだし始めて、之に言たまはく、吾が家は祈禱の家と稱られんと録されたり、然るに汝等は之を盜賊の巢窟となせり。耶蘇日々に聖殿にて教へつゝありき。

(九 頁)

使徒信經

奉獻誦

主の諸の義は最と清く衆庶の心を樂ましむ。主の誠命は最と純粹き蜂蜜よりも猶甘し。嗚呼我 天主、主の僕は其を遵守り奉つる。

司祭餅麪と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、我等此犠牲を献げ奉つる毎に我等の救贖の業行

を重ぬるに因り、願くは聖寵を垂れて、我等をして屢々此秘蹟に近かしめ、且有効に之を領けしめ給はんことを。我等の主 基督に依て恭く願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉擧の時の禱(十五頁)

聖體奉擧後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦(十八頁)

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

聖體受領の時の誦

主は宣へり、我肉を食ひ我血を飲む者は我に在り、我

も亦彼に在り也。

聖體領後の禱

主よ、願くは此秘蹟の拜領が我等を淨よめ、且主に一

致せしめんことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞

孟。

(二十頁)

掩祝の時の禱

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

五百二十一

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

説誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖靈降臨後第十主日

彌撒拜聽前の禱

彌撒之始之禱

入進誦

主は我呼べる時に我聲を聽きたまへり。主は我を我害

はんとて逼り來れる儕輩より我を救ひ給ひけり。萬世の
前に在り又終始在すべき者は我仇敵を降したまひぬ。汝
等諸の憂慮を主の聖聽に托すべし。然らば主は汝等を
養ひたまはん。(詩)嗚呼我 天主、我祈禱を聽きたまへ、我
請願を卻けたまふこと勿れ。願くは我を顧み我に聽き給
はんことを。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

嗚呼 天主、主は罪人を釋し、彼等に慈悲を降して其

權威を到處に現はし給へり。願くは主の慈愛の功德を益々我等の上に加へ、我等をして主の誓ひたまひし福祉を望ましめ、終には天國に於て其を樂ましめ給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第一 十二章二節

我兄弟よ、汝等異教人たりし時、誘導かるゝに隨て、言はざる偶像の下に尊敬を呈さん爲め誘はれ往きしは汝等の知る所なり。我汝等に示さん、神の靈に感じて語る者は 耶穌を誣ふべき者と言ふものなし。又人 聖靈に感ずるに非ざれど、耶穌を主と謂ふ能はず、靈賜は殊れども靈は同じ、職は殊れども主は同じ、又、超性的動作は殊れども一切の事を衆人の衷に行ふ神は同じ、外部に顯れたる 聖靈の賚賜は聖會の必要の爲に各自に賜ひし也。或は 聖靈より才智を以て語るの賚を享け、或は同じ 聖靈より知識を以て語るの賜を享け、或は同じ 聖靈より信仰の賜を享け、或は同じ 聖靈より疾病を癒すの恩寵を享け、或者は奇跡を行すの賜、或者は預言するの賜、或者は靈を辨へ、或者は種々なる方言を語り、或者は方言を通譯するの賜を享けたり。されど凡て此等のことを行し、其心の儘に各人に賚賜を頒け與ふる者は是れ唯一

の同じ 聖靈なり。

昇階誦

主よ、主の腫の如くに我を護り、翼の下に我を庇したまへ。願くは我宣告は聖面より出で、主の聖眼は公平を見り給はんことを。

慶哉、慶哉、シオンにて讚美を呈ぐるは主に適應ることなり、人はイエルザレムにて主に祈願を捧げ奉つる。慶哉。

聖路加福音書

十八章九節

維時

耶蘇自ら待みて義となし、

他を侮るが如き人々

にむかひて此譬喩を語りたまへり。二人の人祈禱んとて聖殿に登りけるが、一はファリゼオ徒、他は收税官なり、ファリゼオ徒立て、心中に斯く祈れり、神よ、我は餘人の如くならず、即ち勒索者、不義なる者、姦淫する者にも、亦此の收税官にも似ざるを爾に感謝し奉つる。我は一週に二回禁食す、凡て有る物の什一を献すと、收税官は遠く下り立ち、目を天に擧るだも敢てせず、其の胸を拊て曰く、神よ、我が此罪人を憫みたまへど、我汝等に告ぐ、此人は彼の人よりも義とせられて、其家に降りゆけり、如何となれを、凡そ自ら高くする者は卑くせられ、

自ら卑くする者は高くせらる可れ也。

使徒信經

奉献誦

主よ、我靈魂は主を仰ぎ望みぬ。嗚呼我 天主よ、我は主に倚凭み奉つる。我れ愧しめらるゝことなかるべし。願くは我仇敵の我を侮るなからんことを、蓋し主の援助を求むる者は曾て其希望の徒しかりしこと非ず。

微唱禱

主よ、願くは主の聖名の榮譽の爲めに献げしめんとして

斯く我等に授けたまひ、且我等の靈魂の藥劑たるべき能力を予ひたまひし此主に捧げられたる犠牲を饗け納め給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱(十五頁)

聖體奉舉後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦

五百三十

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

(十八頁)

主よ、主の祭壇に供へられたる義の犠牲、供物、及び燔牲を主は嘉し納め給ふらん。

聖體領後の禱

主なる我等の天主、我等恭しく願ひ奉つる、願くは主の慈悲を垂れて、其聖き秘蹟もて斷じず養ひたまふ人々に、主の聖佑を拒みたまふなからんことを。我等の主耶穌基督に依て。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

彌撒後の禱

(二十二頁)

○聖靈降臨後第十一主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

五百三十一

天主は其聖處に坐したまふ、同心を有てる人々を同じ住所に集めたまふ。天主は其民に勇氣と力を賦予へたまはん。(詩)願くは天主は起ちたまひ、其仇敵は討ち散され、天主を忌む者は遠ざけられんことを。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

全能永遠の天主、主は主に祈求め奉つる儕輩の功績と希望に超ゆる無限の慈悲にて在ます也。仰ぎ願くは主

の慈悲を我等の上に灌ぎたまへ、想ひ起す、ら猶毛髮悚然べき諸の罪科を赦して、我等が祈禱の力なく敢て求め奉つるに堪ざる底の恩寵を我等に施したまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て伏て冀ひ奉つる。亞孟。

聖保録與哥林杜人書第一 十五章一節

我兄弟よ、我今汝等に我が前に傳へし福音を憶起さしむ。是は汝等が受けし所之に於て汝等が立ちし所なり。汝等若し我傳へし如く、固く守り徒に信することなく之に由て救はれん。我最初汝等に告し所は、我受けし所の事にて、即ち耶蘇は聖經に應ひて我等の罪の爲に死し、

又同じ聖經に應ひて葬られ第三日目に復活りセフハスに見はれ、次に十一の集會者に見はれ、次で唯一回の出現にて五百以上の兄弟に現はれ給へり、其兄弟の中多數は今猶生存へ、或者は既に死の眠に入れるもあり。此後ヤコブに見はれ、又總の使徒に見はれ、終に他の總ての者に後れて、月足らずして生れし者の如き我にも見はれたまへり、蓋し我は神の聖會を迫害し、故に、使徒の中の最微き者にて、使徒の名を負ふに勝へざる者なれ也。然れど我此の如くなるを得しは神の恩寵に因りて也。其恩寵は我に在りて果を結ぶことなくを非ざりき。

昇階誦

我心は其希望を 天主に托けり、而して我は救はれき、
我肉は再び榮はぬ、我は感謝の心もて神の讚美を謳ひま
つらん。主よ、我は主に向て呼びぬ、嗚呼我 天主よ、
黙したまふこと勿れ、我より遠かり給ふこと勿れ。
慶哉、慶哉。我等の保護者なる 天主を祝へ、ヤコブ
の 天主を祝ひ奉れ。樂器の妙なる音に和して讚美を謳
ひ奉つれ。慶哉。

聖馬爾各福音書 七章三十一節

維時 耶蘇ナローの地方を出で、シドンを過ぎ、ガリ

レヤの海に至り、デカポリの地方の中に入れり。時に人々豊にして嘔なる者を 耶蘇に携へて之に手を按れんとを願ひければ、耶蘇彼を群衆の中より別に外へ引つれ、指を彼が耳に入れ、唾して彼が舌に押し、天を仰ぎて歎じ、即ち宣はく、エフエタと、是は開けよと云ふなり。是に於て彼は耳開け、舌の結解けて、直ちに正しく言へり。耶蘇乃ち誰にも言ふ勿れと彼等に命じたまひしかども、命するは益す之を言ひるめ、また益す驚きて曰く、彼が爲す所みな佳し、豊者をして聞かしめ、嘔者をして言はしめたり。

使徒信經

奉献誦

主よ、主は我を防衛りたまひ、我をして我仇敵の爲に喜樂の主因たるを容したまはざりしに由り、我主を稱へ奉つらん。主よ、我れ主に向て呼はり、主我を癒したまひき。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱誦

主よ、願くは我等の献げ奉つる供物が主の聖意に愜ひ、最と厄弱き吾人の扶持とならん爲め、御慈悲を垂れて、我

等の依屬み奉つる恭敬の心情を顧み給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麪餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱(十五頁)

聖體奉舉後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦(十八頁)

聖體を領るを望む禱(十八頁)

聖體受領の時の誦

汝等の所有物の一部と、其收穫れる初穂とを献げて主に
を崇め奉つれ。然らば汝等の食廩は麥以て充ち、其酒蜜
には美釀溢れん。

聖體領後の禱

主よ、願くは此秘蹟の拜領に由て、我等の靈魂と肉身に
に主の恩寵の効果を感得しめ、我等をして各自其救靈を
求め得て、終には夫の天の靈藥の全きものを享くるの幸
福に達せしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て
一向冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱
彌撒後の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

(二十四頁)

○聖靈降臨後第十二主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

嗚呼 天主、我援助に臨りたまへ。主よ、我救援を躊躇

ひたまふこと勿れ。願くは我生命を奪はんとする輩の

侮辱と慚愧とを蒙んことを。(詩)願くは我零落を欲む者の

遠けられて愧んことを。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱後

慈悲全能にて在ます 天主、主に事ふる儕輩は主に適
應へる誠意の拜禮を呈ぐるの恩寵を蒙れり。仰ぎ願くは

我等をして主の約し給へる幸福に向て熱心に進ましめ、何
ものも我進路を妨ぐることなからしめ給はんことを。我
等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

聖保録與哥林杜人書第二 三章四節

我兄弟よ、我等神に向ひて斯る大なる信仰あるは是れ
基督に由てなり。されど我等已によりて自ら何の善き思
考をも有ち得るに非ず、我等をして之を有するに勝へし
め給へるは神なり。彼れ我等をして儀文にあらず靈に於
て成立てる新約の役者となるに足らしむ、是れ儀文は殺
し靈は生せむ也。若し終には廢るべき石に鑄し儀文の役

事、即ち死の役事すら、猶モイズが放ちし赫々ける光明
に由てイスラエルの子孫等が彼の面すら注目ること能は
ざりし底の榮譽を受けしならむ、況して靈の役事は其榮
譽なること幾何ぞや。蓋し若し罪を定むる役事にして、而
も猶榮譽あらむ、況して義とする役事は其榮譽比無く勝
るべけれむ也。斯る律法の榮譽すら、福音の最と優れて
限なき榮譽に比ぶれむ、眞の榮譽にはあらざりき。約て
言は、終には廢るべき役事にして若し若干の榮譽を受け
なむ、況して終りなく存在すべき役事は彌愈りて其榮譽
をぞ受くべけれ。

我れ絶えず 主を祝し奉つらん、其讚美は常に我口に
 在らん。我靈魂は、主の許に榮譽を獲ん。願くは心の謙
 遜なる者の我に聴き、我歡喜を分與たんことを。
 慶哉、慶哉。我救靈の神なる 主、我晝夜主に向て呼
 はり奉つる。慶哉。

聖路加福音書 十章二十三節

維時、耶穌其弟子等を顧みて、宣まひけるは、汝等が
 視る所の事等を視る目は福なる哉。我汝等に告ぐ、衆多
 の預言者と王等は汝等が見る所の事等を見んと欲せしか

ども、之を見ざりき。汝等が聞く所の事等を聞んと欲せ
 しかども、之を聞ざりき。時に、一人の教法師立あがり。耶
 蘇を試みて言けらく、師よ、永生を得んには何を爲すべ
 きや、耶穌彼に言たまひけるは、律法の中に何と書され
 たるぞや、如何に汝は讀むや。彼答へて曰く、汝の心を
 盡し、汝の力を盡し、汝の意を盡して、主なる汝の神を
 愛すべし、又汝の近倫者を己の如く〔愛すべし〕、耶穌彼に
 言たまひけるは、汝の答たるところ正し、是を行へ、然
 らん汝生べし。然るに彼自ら義とせんと欲して、耶穌に
 言けらく、吾が近倫者とは誰ぞや。耶穌言を續けて曰た

まひけるは、或人イエルザレムよりイエリコへ下るとて、盗賊の中に陥りしかを、盗賊また之を剝ぎ、傷を負せつ、半死半生にして去りゆきぬ。適ま一人の司祭同じ路を下り來しが、之を見ながら過ゆけり、レヅ井人も此處に近く進みて之を見しが同じく過ゆけり。然るに一箇のサリア人旅して彼に近く來り、之を見るや悲憫を起し、進みよりつ、油と葡萄酒を注ぎて、其傷を裹み、之を已の畜に乗て客館に携へ、而して之を看護せり、翌日彼ニデナリヨを取いだして、館主に予へて曰く、彼を看護せよ、凡そ汝が「之に」超て費したる所は、我歸る時汝に償還さ

んど、此等三人の中孰れか夫の盜賊の中に陥りたる者の近倫者なると汝思ふや、彼曰く、其人に悲憫を加へたる者は是なり。耶蘇彼に言たまはく、汝も往て斯の如く爲せ。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

摩西は其神なる 主の尊前に祈りて曰く、主よ、何故主は其民を怒りたまふや、主の憤恚を和げたまへ。主が乳汁と蜂蜜の流るべき地を予へんと約し給ひしアブラハム、イザーク、ヤコブを憶起したまへど。茲に主は其憤恚を和げ、其民より彼等を艱す兇惡を排け給へり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは我等が主の祭壇に献げ奉れる此祭餼が我等の罪科の赦宥を獲しめ、主の聖名に對して適應しき尊敬とならん爲め、御慈悲の眼を以て此祭餼を顧み給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て謹で願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

主よ、主は其聖手より漏れし夥多の果實もて地を充し給ふらん。主は人類を養ふべき食糧、人心を喜むべき葡萄酒と醸酒とを圃園より産せしめ、人の顔面を薫らする香油と、其軀軀を保存つべき食料を心予へたまふ也。

聖體領後の禱

五百五十

主よ、願くは新たなる生命を賦予する此秘蹟に、我等の參與り奉つれる餘徳が、罪科の赦宥と共に、必要なる助佑を我等に獲しめんことを。我等の主 基督に依て一向冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る
彌撒後の禱

(二十二頁)

(二十四頁)

○聖靈降臨後第十三主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、主の誓約を憶起し、主に請ふ者の惱める心を常に遺忘れたまふこと勿れ。主よ、起ちて其訴訟を審判さたまへ、主を索むる輩の祈願を排け給はざれ。(詩)主よ、何ぞ常に我等を擯斥けたまひしや、何ぞ主の義怒は其羊舎の羊に對て熾烈かりしや。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

全能永遠の天主、主の約したまひし所の者を享け得ん爲め、我等をして常に愈々信望愛の三徳に於て榮えしめ給へ、願くは主の命じたまひし者を愛するやう我等を佑け給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。 亞孟。

聖保録與加拉太人書 三章十六節

我兄弟よ、神はアブラハムと其裔より生るべき者にと

約束を立てたまへり。聖經は衆多の人を指して裔より生る者ど云るにあらず、唯一人を指して汝の裔より生る者ど云るなり、是れ即ち 基督なり。我言んと欲する處は即ち神の法に従て定めたまひし契約は、四百三十年の後に至りて與へられたる律法の之を棄て、或は神の約束を消滅し能はざることは是なり。蓋は我等が嗣業となること若し律法に由らむ、其は己でに約束に據るには非ざれ也。然れど神は約束に由りて之をアブラハムに與へたまへり。さらむ律法の用は何ぞや、其は此律法を破る者の從順ならざるを知らしめ、生るべき者の來りて約束

を見る時まで繼續かしめん爲に立てられし也。されをこそ天の使聖に由り、中保者の手に由りて與へられけれ。夫れ中保者なるものは一人より成るに非ず、神は則ち唯一也。然らむ律法は神の約束に反けるや、決めて否らず、蓋し與へられし律法にして若し生命を授け得む、義の律法より來るべきは眞實ならん。されど書されし律法は反て萬人を罪辟の下に拘囚めたり、是は耶蘇基督に於ける信仰に由て、彼を信する人々に神の約したまへるものを授け給はん爲なりき。

昇階誦

主よ、主の誓約を憶起し、主に請ふ者の惱める心を常に遺忘れたまふこと勿れ。嗚呼、天主、起ちて其訴訟を審判したまへ。主の僕等が蒙れる侮辱に報讐いたまへ。慶哉、慶哉。主よ、主は代々に我等の庇護者なりき。慶哉。

聖路加福音書 十七章十一節

維時 耶蘇イエズス、イエルザレムに往んとて、適マサマリヤとガリラヤの中を逕りしが、某村に進み入るや癩病者十人ありて、之を迎へ、遠く離れて立ち、聲を揚げて曰く、耶蘇、師よ、我等を憫みたまへ。耶蘇これを見て言たまは

く、汝等往きて已を司祭等に見せよと、彼等往く間に淨
まれり。其一人己が淨まれるを見るや、即ち大聲に神を
榮しつゝ返り來り、耶蘇の足の前に俯伏て恩を謝せり、彼
はサマリヤ人なり。耶蘇答へて言たまはく、淨まれる者
は十人にあらずや、其九人は何處にあるや。返りて神に
榮を歸し奉つる者は此異邦人の外に一人もあらざる乎。耶
蘇彼に言たまひけるは、起て去れ、汝の信仰なんぢを拯
からしめたり。

使徒信經

奉献誦

主よ、我は主に依りて奉つる。我れ主に言へり、主は
我れ天主に坐まし、我れ生命は主の御手に在りど。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、主の民に御慈悲を垂れたまへ。願くは此祭贄に
由て聖心を和げ、我等の罪科を赦し、我等の願望を容れ
たまふやう、御慈悲の眼を以て此供物を顧み給はんこと
を、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

司祭典文を読む時の禱

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱(十五頁)

聖體奉舉後の禱(十五頁)

主禱文(十七頁)

神羔誦(十八頁)

聖體を領るを望む禱(十八頁)

聖體受領の時の誦(十八頁)

主よ、主は天の食糧、最と美味き麴餅、秀れて善き味を我等に與へたまへり。

聖體領後の禱

主よ、若し聖意に適ひたまはし、願くは我等をして此天の秘蹟を拜受し、無窮なる救贖の事業に進ましめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)

○聖靈降臨後第十四主日

五百六十

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

嗚呼我等の保護者に坐ます 天主、我等に聖眼を注ぎ
たまへ。主の 基督を顧みたまへ。主の幕屋に過せせる一
日は他の到處に過せせる千萬の日に勝れり。(詩)嗚呼軍隊
の神よ、主の幕屋は如何に好ましき者なるぞ、我靈魂は
主の軍門を望見はんとの熱望もて充されたり。

(榮誦)願くは聖父と聖子云々

榮光之聖歌

集禱文

(六頁)

主よ、連綿たる攝理に由て主の聖會を護り給へ。若し
主の支撐へたまふに非ざれば、人は自ら立ち能はざる底
孱弱ものなれむ、願くは主の援助を以て、彼を惱すべき
一切のものを退け、其救靈に益すべきものに向て導き給
はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞
孟。

聖保錄與加拉太人書

五章十六節

五百六十一

我兄弟よ、汝等靈に循て歩み、決して肉の慾に隨ふ勿れ、蓋し肉の慾は靈の望に悖り、靈の望は肉の慾に逆ふ、此二者の互に相反することは、汝等がその正に爲すべき事をも爲し得ざる程なれむなり。汝等若し靈に循て導かる、時は己に律法の下に在らず。夫れ肉の所行は顯著なり、即ち野合、汚穢、好色、放逸、偶像を祀ること、怨恨、忿怒、争鬭、分争、異端、嫉妬、兇殺、沈湎、游蕩、其他之に類する非行なり。我于現汝等に告ぐる如く、又嘗て汝等に告しが如く、此等の事を犯す者は神の國に入るを得ず。靈の結ぶ所の果は仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈

悲、善良、寛容、溫柔、信仰、節制、眞操、清潔なり。此等の生活をなす者を禁ずる律法は有ることなし。夫れ基督に屬する者は其肉を情慾及び不法の欲望と共に十字架に釘けたりき。

昇階誦

主に依屬み奉つるは人間に倚頼むに優りて佳し。希望を主に置くは地上の王に置くに勝れり。慶哉、慶哉。率來れ、我等主の許に樂まん。我等の救主なる天主の尊前に、我等の歡喜を彰はさん。慶哉。

聖馬竇福音書

六章二十四節

維時 耶蘇其弟子等に言けるやう、二人の主しゆに兼事かねじふ
 るを得る者なし、或は一人を惡みて一人を愛し、或は一
 人に従がひて一人を疎まん。汝等神とマンモンに兼事ふ
 るを得ず。是故に我汝等に告ぐ、汝等何を食はんかと生
 命のために「慮かり」、何を衣んかと身體の爲に慮る勿れ、
 生命は糧よりも優り、身體は衣よりも優るならずや。天
 空の鳥を觀よ、稼くことなく、稽ること無く、倉に收む
 ることも無けれど、汝等の天父は此等の者を養ひたまふ
 也。汝等は此等の者よりも大に優らざらんや。汝等の中
 誰か能く慮かりて其長に一尺だも加ふるを得んや。汝等

なんど衣服のために慮るや、野の玉簪花の如何に生長か
 を睹よ、勞かず紡ざるなり。我汝等に告ぐ、サロモンも
 其榮華を極めたる時にすら、此花の一はどには装はざり
 き。今日は在りて明日は爐に投いれらるゝ野の草をさへ、
 神は斯く装ひたまへむ、況して汝等をや、嗟信仰薄き者
 よ。されむ汝等何を食ひ何を飲み何を衣んと慮かる勿れ、
 此等の物は皆異邦人の索むる所なり、汝等の父は此等の
 物の皆汝等に必要なるを知りたまへり。故に先づ神の國
 と其の義を求めよ、然らむ此等の物は皆汝等に加へらる
 べし。

使徒信經

(九頁)

奉獻誦

主の聖使は神を畏る、儕輩の側に降りて彼等を救ふべし。試み味へ、主は如何ほど甘味に在ますかを。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、仰ぎ願くは此救靈の祭餽が我等の罪科を拔淨め、主の慈悲深き稜威を我等に享けしめんことを。我等の耶蘇基督に依て只管願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

主は宣へり、先づ神の國を求めよ、さらば此等のものは皆汝等に加へらるべしと。

聖體領後の禱

嗚呼 天主、願くは主の秘蹟が我等を浄め、斷せず我等を鞏固め、我等をして無窮の救霊に達せしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向に願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(三十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(三十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○聖靈降臨後第十五主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、聖耳を傾けて我等の祈禱を聞き容れ給へ。嗚呼、天主よ、主に歸依し奉つる主の僕を救ひたまへ。主よ、我日々主に向て呼はれを我を憫み給へ。(詩)主よ、我心霊は主を仰望ぎ奉つるに因り、主の僕の靈魂に歡喜を灌ぎたまへ。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

集禱文

(六頁)

主よ、願くは斷間なく御慈悲を垂れて主の聖會を淨め
護りたまへ、聖會は主に離れて存在し得ざるにより、永
久に恩寵を降して之を導き給はんことを。我等の主 耶
蘇基督に依て我等恭く主に祈り奉つる。亞孟。

聖保錄與加拉太人書 五章二十五節

我兄弟よ、我等若し靈に循て生きなむ、亦靈に循て導
かるべし。互に争鬪を惹起し、互に嫉妬に心を奪はれて

虚き榮を希求ること勿るべし。我兄弟よ、若し圖らずも
過失に陥るものあらむ、汝等靈に感じたる者は意を注め
て温和なる精神の中に、之を援ひ掄ることを務むべし。汝
等各自も亦恐らくは同じく誘惑に罹ることあるべけれど、
熟く自己を省みよ。相互に重荷を擔ひて 基督の律法を
全ふすべし、蓋し人若し有ることなくして而も自ら有り
とせむ是れ自らを欺くなり。夫れ各人注意して其自ら行
せる所を勘へ見よ、斯せむ其榮譽とする所は、他人と比
ぶるに在らずして、唯自己のみに在るべし、蓋し人各々
其荷を負ふべけれどなり。眞實の言を以て教へらる者は、

其教を受しものに凡ての道に於て有益なる物を分子ふべし。汝等自ら欺くべからず、神は慢るべき者にあらず、人は稼く所の外穢る處あらず。されど肉に於て播く者は肉より敗壞と死とを收穫め、靈に於て播く者は靈より永久の生命を收穫むべし。故に善を行ふを懈る勿れ、若し倦むことなくんば、我等時に至りて其果を收むべけんなり。我等若し機會あらんば衆人に善を行すべし、同じ信仰を有する同族には別て之を行ふべし。

昇階誦

嗚呼最高者よ、榮光を主に歸し、主の聖名を謳ふは佳

し、朝より主の慈悲を宣べ、夜の間主の眞實を傳ふるは佳し。

慶哉、慶哉。主は大神なり、全地を統理る大王なり。慶哉。

聖路加福音書 七章十一節

維時 耶蘇ナイムと云ふ邑に往けり、其弟子及び大群衆かれと共に行く。耶蘇邑の門に近づける時、視よ死人ありて昇出さる、是は其母の獨子にして、母は既に癡なりき、其邑の人々はなほだ夥だしく之に伴ふ。主彼れを見るや、憫みて彼に言たまはく、哭く勿れど、やがて進

み寄りて櫃をれさへ、(之を昇る者は立どまれり)言たまはく、少者、我なんぢに言ふ興きよ。死者れきかへり、且言ひ始めたり、耶蘇之を其母に還し興ふ。衆みな畏怖をいだき、神を崇めて曰く我等の中に一大預言者れこれり、神は其民に臨みたまへりと。

使徒信經

(九 頁)

奉献誦

我れ 主を待てり、我れ倦ずして 主を待てり、而て主は我を顧みたまへり。主は我祈願を聴き、我口に新たなる頌歌、我等の 天主を崇むべき讚美の歌を置きたまへり。

へり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは主の秘蹟が我等を護り、悪魔の襲撃に對して常に我等を防衛らんことを。我等の 主耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五 頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の禱

我予ふべき麴餅は是れ世の生命の爲に交付すべき我肉なり。

聖體領後の禱

主よ、我等の行爲を指導く者は我等自身の念慮にあらで、此秘蹟の功果ならん爲め、願くは主の天賜の功力が

我等の靈魂と肉軀とを聖ならしめんことを我等の主 耶穌基督に依て冀ひ奉つる。

掩祝の時の禱

(三十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(三十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖靈降臨後第十六主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、我日々に主に向て呼はれを、願くは我を憫みたまへ。主よ、蓋し主は温和善良に満ち、主に請め奉つる輩に對して、慈悲に富みたまへ也。(詩)主よ、聖耳を傾けて我に聽き容れたまへ。是れ我は一切禱はれ、最と憫焉なる者なれ也。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

主よ、願くは主の恩寵が常に我等を指導き、我等に隨伴ひ、我等をして不斷善業を勵ましめたまはんことを。我等の主 耶蘇基督に依て一向冀ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與以弗多人書 三章十三節

我兄弟よ、我汝等に請む、我が汝等の爲に此く患難を受るを見て汝等怯ることなからんことを、是れ此患難は汝等の榮譽なれ也。此に緣て我等の主 耶蘇基督の父

即ち天と地に在る此諸の大なる眷属の本原、又首領なる者の前に跪くは、是れ其光榮の富に循ひ、其聖靈に由て汝等の衷の人を強健ならしめ、又信仰に由て汝等の心に、基督を住はしめ、且汝等をして愛に根ざし愛に基きて、諸の聖徒と偕に、此妙理の潤さ、長さ、高さ、深さを識らしめ、總ての智慧に超えたる基督の我等に對する愛情を悟らしめ、又凡て神の恩賜の十全ものに循て汝等の満されん爲也。願くは其權能を以て、我等の求め或は知得り能ふ所よりも甚く優りて、限りなく行し得る者は、耶穌基督に依り、聖會の中にて世々窮無く榮光あらんことを。

とを。亞孟。

昇階誦

主よ、諸の國民は主の聖名を畏れ、地の衆の王等は主の榮光を知了るべし、是れ主はシオンを再興し、爰に榮光の中に現はれ給ふべけれ也。慶哉、慶哉。新なる頌歌を主に謠へ、主は最と妙なる技工を行したまひたれ也。慶哉。

聖路加福音書 十四章一節

維時適々安息日に 耶穌アリゼオ徒の中なる某領袖の家に入りて麪餅を食ひけるに、彼等これを窺へり。視

よ、水腫に罹れる一箇の人 耶蘇の前にをれり。耶蘇應へて教法師とツアリゼオ徒とに告て言たまはく、安息日に醫すは可きや、彼等默然たりしかむ、耶蘇乃ち彼を執へ、醫して彼を去しめつ、彼等に答へて言たまはく、汝等の中孰か驢馬または牛の井に落たらんに、安息日には肯て之を速かに引あげざらんとする者あるや。彼等これにつきて 耶蘇に答ふる能はざりき。時に招かれたる人々の如何に上席を揀ぶかを熟視して、彼等にも譬喩を語りて曰たまはく、汝等婚筵に招かれたる時は首座に即く勿れ、恐らくは汝よりも尊き人招かれて至らん、而して汝

と彼とを請びたる者來りて汝に言ん、請ふ此客に座を譲れと然る時には汝始めて羞て末座に即ん、されむ汝請れる時は、往て末席に即よ、然らむ汝を招ける者來る時或は汝に言ん、友よ、上へ進めど、然らむ汝その與に宴する人々の前に榮あるべし。如何となれむ自ら高くする者は卑くせられ、自ら卑くする者は高くせらるべけれ也。

使徒信經

奉献誦

主よ、我救援を躊躇ひ給はざれ、願くは我生命を奪は